開設50周年
新篠津村学校給食センター
～本村の学校給食が50周年を迎えました～

開設当初の給食センター

日本での学校給食のはじまり

日本の学校給食は明治22（１８８９）年に山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）の私立忠愛小学校で始まりました。当時は貧しい家庭が多く、子ども達の栄養を改善するために、おにぎりや漬物、焼き魚などが提供されていました。その後、給食は全国へ広まりました。

本村での学校給食のはじまり

▽給食要望のはじまり

本村では、昭和37（１９６２）年７月、新篠津小学校ＰＴＡの集会で母親たちより学校給食への強い要望がきっかけとなりました。

同年12月12日、新篠津小学校ＰＴＡは、隣村の北村学校給食センターを視察し、「農繁期で食事を疎かになってしまう。新篠津村には、成長期にある子ども達のためには学校給食が必要」との思いを強め、学校給食センター建設の構想を当時の野村村長と佐藤村議会議長へ具申し、早期実現を懇願しました。

▽全村実施運動の展開

同年12月17日、新篠津小学校のＰＴＡが発起人となり、全村の小学校・中学校の学校長及びＰＴＡ会長の合同協議会を開催しました。昭和38（１９６３）年１月25日に開催された協議会では、「センター方式による学校給食事業の早期実施」と意見が一致。同日、村長、議長、教育委員会へ早期実施に向けての陳情書を提出しました。

▽学校給食促進委員会の設立と展開

同年２月８日、村ＰＴＡ連合会は、学校給食促進委員会を設立。同年５月には議会関係者や教育委員会などの関係者と北村学校給食センターを視察し、精力的に運動を展開しました。

▽学校給食準備委員会

同年７月５日、村議会は、議会議員、教育委員、各学校長、父兄で構成される学校給食準備委員会を設立。学校給食促進委員会で検討された計画などを参考に実施案を作成。同年８月２日の村議会本会議に答申し、承認を得ました。

▽村で学校給食がスタート

昭和38（１９６３）年、新篠津村学校給食センターの工事が着手し、ボイラーや厨器などが備え付けられました。

同年11月16日より全道で５番目のセンター方式の完全給食が新篠津村の全８校でスタートしました。

この当時の学校給食の運営は建物や内部の施設、自動車などは村費で賄い、給食の調理や配送は運営委員会が行っていました。

その後の学校給食の歩み

昭和40（１９６５）年には小学校５校、中学校３校、保育所１所、季節保育所４所に一日１２５０食を提供。昭和43（１９６８）年には学校給食センターの運営が全て教育委員会が管理することになりました。昭和51（１９７６）年